

# インマヌエル中目黒キリスト教会

## 2016年7月10日聖日礼拝

---

エステル記連講(3)

「どの民族のものとも違って」

エステル記

3章1節 ~ 4章3節

竿代照夫牧師

- 1 この出来事の後、アハシュエロス王は、アガグ人ハメダタの子ハマンを重んじ、彼を昇進させて、その席を、彼とともにいるすべての首長たちの上に置いた。
- 2 それで、王の門のところにいる王の家来たちはみな、ハマンに対してひざをかがめてひれ伏した。王が彼についてこのように命じたからである。しかし、モルデカイはひざもかがめず、ひれ伏そうともしなかった。
- 3 王の門のところにいる王の家来たちはモルデカイに、「あなたはなぜ、王の命令

にそむくのか」と言った。

- 4 彼らは、毎日そう言ったが、モルデカイが耳を貸さなかったので、モルデカイのこの態度が続けられてよいものかどうかを見ようと、これをハマンに告げた。モルデカイは自分がユダヤ人であることを彼らに打ち明けていたからである。
- 5 ハマンはモルデカイが自分に対してひざまかがめず、ひれ伏そうともしないのを見て、憤りに満たされた。
- 6 ところが、ハマンはモルデカイひとりに手を下すことだけで満足しなかった。

彼らがモルデカイの民族のことを、ハマ  
ンに知らせていたからである。それでハ  
マンは、アハシュエロスの王国中のすべ  
てのユダヤ人、すなわちモルデカイの民  
族を、根絶やしにしようとした。

7 アハシュエロス王の第十二年の第一の月、  
すなわちニサンの月に、日と月とを決め  
るためにハマンの前で、プル、すなわち  
くじが投げられ、くじは第十二の月、す  
なわちアダルの月に当たった。

8 ハマンはアハシュエロス王に言った。  
「あなたの王国のすべての州にいる諸民

族の間に、散らされて離れ離れになっている一つの民族がいます。彼らの法令は、どの民族のものとも違っていて、彼らは王の法令を守っていません。それで、彼らをそのままにさせておくことは、王のためになりません。

9 もしも王さま、よろしければ、彼らを滅ぼすようにと書いてください。私はその仕事をする者たちに銀一万タラントを量って渡します。そうして、それを王の金庫に納めさせましょう。」

- 10 そこで、王は自分の手から指輪をはずして、アガグ人ハメダタの子で、ユダヤ人の敵であるハマんに、それを渡した。
- 11 そして、王はハマんに言った。「その銀はあなたに授けよう。また、その民族もあなたの好きなようにしなさい。」
- 12 そこで、第一の月の十三日に、王の書記官が召集され、ハマンが、王の太守や、各州を治めている総督や、各民族の首長たちに命じたことが全部、各州にはその文字で、各民族にはそのことばでしるされた。それは、アハシュエロスの名で書

かれ、王の指輪で印が押された。

13 書簡は急使によって王のすべての州へ送られた。それには、第十二の月、すなわちアダルの月の十三日の一日のうちに、若い者も年寄りも、子どもも女も、すべてのユダヤ人を根絶やしにし、殺害し、滅ぼし、彼らの家財をかすめ奪えとあった。

14 各州に法令として発布される文書の写しが、この日の準備のために、すべての民族に公示された。

15 急使は王の命令によって急いで出て行った。この法令はシュシヤンの城でも発布された。このとき、王とハマンは酒をくみかわしていたが、シュシヤンの町は混乱に陥った。

1 モルデカイは、なされたすべてのことを知った。すると、モルデカイは着物を引き裂き、荒布をまとい、灰をかぶり、大声でひどくわめき叫びながら町の真ん中に出て行き、

- 2 王の門の前まで来た。だれも荒布をまとったままでは、王の門に入ることができなかつたからである。
- 3 王の命令とその法令が届いたどの州においても、ユダヤ人のうちに大きな悲しみと、断食と、泣き声と、嘆きとが起こり、多くの者は荒布を着て灰の上にすわった。

# 説教

エステル記連講（3）

「どの民族のものとも違って」

エステル記

3章1節～4章3節

竿代照夫牧師

## 主テキスト

王国のすべての州にいる諸民族の間に、散らされて離れ離れになっている一つの民族がいます。

彼らの法令は、どの民族のものとも違って、彼らは王の法令を守っていません

( エステル記 3:8 )

前回 .

すべての人から好感を持たれ、  
ペルシャの王妃となったエステル

# 1. ハマンの昇進と怒り(1~6節)

- ・ハマン: アマレク王アガグの子孫  
(出17:8、1サム15:2、33)
- ・ハマンの特進
- ・モルデカイの“<sup>なび</sup>靡かぬ態度“
- ・ハマンの怒りと企み

## 2. ホロコースト命令(7~15節)

- ・カレンダーを定めるくじ引き
- ・ハマンの「ユダヤ人脅威論」  
世界に散り、しかし民族的一体性を失わず、独自の法令を持ち、帝国の法令に従わない(?)
- ・問題の本質は唯一神信仰と世俗社会の衝突
- ・王の許可: 銀1万タラント贈賄の効果
- ・全国へのお触れ  
12月13日、ユダヤ人全滅・財産没収

### 3 . ユダヤ人の嘆きと悲しみ (4:1~3節)

- ・モルデカイの嘆き(荒布、灰、叫び)
- ・全ユダヤ人の嘆き

おわりに:

## 周りとの違いを恐れず、 違いによって主を証ししよう

「たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動揺させたりしてはいけません。むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、恥じることはありません。かえって、この名のゆえに神をあがめなさい。」(1ペテロ3:14~16)